

山 館

布良の小谷家 今春公開へ

青木繁「海の幸」誕生の家 地域活性化にも期待増

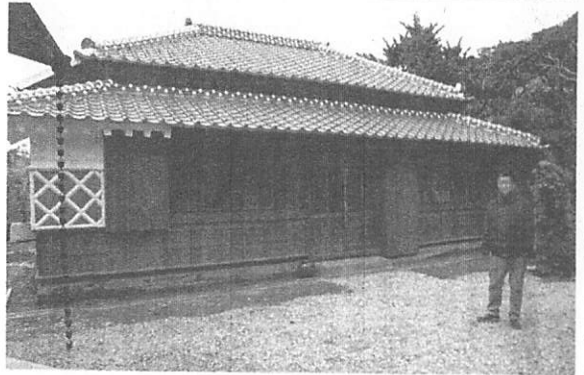
青木繁が代表作「海の幸」を制作した「小谷家住宅」Ⅱ館山市布良Ⅱの修復作業がほぼ完了し、今年4月24日に公開されることが決まった。老朽化が進んでいたが、地元、画壇が保存、修復に動き、明治時代の姿を取り戻した。新たな館山の名所として、地域活性化への効果も期待されている。

名作「海の幸」誕生の家に傷み

漁を終えた裸の漁師たちが、大きなフカ(サメ)を担ぎ、夕日を浴びて戻ってくる。国重要文化財「海の幸」が誕生したのが、この小谷家だ。

青木は明治37年(1904)夏、仲間4人で房総に写生旅行に訪れ、この家の一室で、海の幸を描き上げた。

漁師町にたまたま小谷家は、江戸時代から続く網元の家。明治期に建てられた瓦ぶきの平屋建てで約93平方メートル、安房の特色である分棟別民家の特徴を残したつくり。



今春の公開が決まった小谷家＝館山市布良で

の価値も高く、平成21年に市の有形文化財に指定されたが、築130年近くと老朽化が進み、屋根などに傷みが目立っていた。

3者で保存活動 大村氏も先頭に

「小谷家なくして海の幸の誕生はなかった」。保存活動に動いたのが、現当主、小谷福哲さん(65)、地元で「青木繁『海の幸』誕生の家」と記念碑を保存する会、日本美術界の有志で組織した「NPO法人青木繁『海の幸』会」の3者。

修復、公開に向けて支援を呼び掛けた。この海の幸会の理事長に就任したのは、昨年

ノベル生理学・医学賞を受賞した大村智氏(80)。海の幸会では、全国の画家に協力を求めたチャリティ巡回展で資金を集め、大村氏自身も300万円を寄付した。

明治の面影の家 4月以降公開へ

美しい瓦屋根、時代を感じさせるナマコ壁。傷んでいた屋根は全面的にふき替えられ、昭和に入ってから増築された部分は撤去、当時の姿に近づけて修復された。



青木繁「海の幸」＝石橋美術館所蔵

「富崎に活気を」小谷家の現当主

「海の幸会には資金的に大きな支援、地元保存会の方々にも多くのお力をいただき、行政のバックアップもあった。公開にこぎ着けられたのは、たくさんの方々のおかげ」と現当主、小谷福哲さん。

「将来の子どものために」と小谷家の保存のために決断した先代・宋氏の思いを引き継ぎ、活動を続けてきた。小谷家を単なる観光文化施設でな

とができる。青木らが訪れたはずまいを残す約200坪の庭もきれいに整えられており、公開に向けて「海の幸」の複製画、同家の資料などの展示物の準備、調整が進められている。

4月のオープン後は、地元の保存する会で管理。土曜、日曜日の週2回の公開を予定。地域文化の拠点としての活用も検討している。

近くには青木没後50周年を記念して建立された記念碑もあり、青木繁の聖地として注目を集め、新たな名所として活性化が期待されている。



小谷家で公開について話し合う関係者ら＝同

く、子どもたちの学び、教育の空間にしたい」と強調。

「現在は衰退しているが、マクロはえ縄線なども盛んで、かつての富崎は活気にあふれていた。小谷家をきっかけに、布良崎神社など地域の文化遺産をつなげて人を呼び込み、再びこのエリアが活気づくことを願う」と思いを語る。

「しっかりと活用を」 嶋田博信保存会長

地元の保存会の嶋田博信会長(82)は「青木繁、海の幸を愛する全国

の地元の方々にはパトンをお渡しすることになりまし

平成23年3月の大震災により一時中断を余儀なくされましたが、全国の多々の方からこの活動への深い御理解と熱い御支援を賜(たまわ)り、おかげさまで寄付の目標もあと一息といふところまで来ています。

小谷家の修復作業は順調に進み、この4月に無事公開に至れば、私どもの会としての初期の目的は達成できることになり、後は強い熱意をお持ち

寄稿

地域の貴重な文化遺産

NPO法人青木繁「海の幸」会 理事長 大村 智



平成21年春、明治期の洋画家、青木繁を敬慕する画家の皆さんが設立準備を進めていた「青木繁『海の幸』会」理事長への就任要請をいただきました。

日本美術界に多大な足跡を残された天折の天才画家、青木繁の「その短い生涯に燃焼しつくした浪漫溢(あふ)れる世界に接して画家になる動機

を得たという方が数多くおられた」と聞いていたことから、私は単身、館山市布良の小谷家を訪れ、小谷家の皆さんと話をし、事業の必要性を認識し、皆さんの熱意に動かされ、少しでも力になれればと理事長就任の話をお受けしました。

若き画学生たちが滞在した小谷家の一室(行(た)らず)んだ

の地元の方々にはパトンをお渡しすることになりまし

修復を終えた青木繁「海の幸」誕生の家を地域の貴重な文化遺産として、後世に残していくことを切に希望するともに、多くの皆様、今から10年も前に日本の近代洋画の原点が芽生えた地である小谷家を訪れていただき、当時の人々に思いを馳(は)せ、多くの感動を味わっていたいただけますことを、心から願っております。(北里大学特別栄誉教授)